

参加者感想

2011年

参加期間 10月30日 ~ 11月9日

参加されたプログラム名

バリ島障害孤児サポート

参加の動機

- ・ 海外の子どもたちと交流してみたいと思った。
- ・ 聴覚障害の子どもたちに興味があった。

ボランティア活動

(ボランティア先の様子、活動内容、時間、回数などを含めて、貴方が感じたことをご自由にお書き下さい。)

< 活動回数 > 8日間

< 活動時間 > 主にお昼ごろから夕方6時ごろまで

活動時間は特に制限がありません。午前中に行ったり、午後3時ごろから訪問したこともありました。

< 施設 >

ここは隣接するろう学校に通うため小学生、中学生の寮のような施設です。子どもたちは真にできない子ばかりで、手話でコミュニケーションしていました。でも一部偉くなってしゃべれる子もいました。

施設長の「お父さん」によると「子どもは35人、ここは寝とまりしている子は、そのうち25人」とのこと。他の子どもはここでご飯を食べてから帰宅するそうです。日本の学童保育のような感じでした。

また土曜の午後（こちらは土曜も学校がある）に帰宅する子どもがかなりいて、日曜日に私が訪問したときには6~7人の子どもが残っているだけでした。

スタッフは女性が2人。それから「お父さん」とその奥さん。計4人。

貴方が参加された活動を通じ、一番印象に残ったこと、感想、感じたこと、考えたこと、おもしろかったこと、次に参加するひとなどへのアドバイスをご自由にお書きください。パソコンで入力していただいても、この書類をプリントアウトして直筆で記入いただいても大丈夫です。もちろん、どれだけ増えても良いです。よろしくお願いします。

(その他のポイント: 滞在した家、寮、ホテルの様子、持ち物で役に立ったもの、どれぐらいの量の服をもっていったらよかったか、現地の食事、お勤めのレストラン、現地での旅行、どれぐらいのお金を使ったか、物価、天候などもお知らせください)

※お写真を添付される場合は、データの容量を小さくして頂くか、何度か分けてメール添付でお送り下さい。

< 学校 >

道路をはさんで向かいにあるろう学校へは施設から歩いて15秒。小学部、中学部の他に今年から高等部1年のクラスがオープンしたそうです。

聴覚障害児の他に知的障害の子どもたちも少しいました。小学生も中学生も授業は朝からお昼の12時まで。午後はありません。小1、小2は10時までです。また土曜日にも授業があります。一方日本の夏休み、冬休みのようなものはありません。

< 活動内容 >

・ あやとり（毛糸の玉を持っていききました）

訪問した8日間を通してあやとりはかなり人気がありました。

最初は「ほうき」のできる子が少しいた程度でしたが「2段はしご」「4段はしご」、また2人でやるあやとりを紹介したところ、子どもたちはどんどんおぼえていきました。

ダイソー100円あやとり本も持っていたのですが、その本を見ながら自分で形を作っている子どもを何人か見ました。

「5段はしご」「4段はしご→富士山」「かに→女の子」「指から指への紐うし」など、子どもたちと一緒に遊んだ時間はとても楽しかったです。

・ コマ

ひとつ100円のコマを12個 持っていきました。最終日には プレゼントとして おいきました。(ひとつは コーディネーターのウタマエさんに プレゼントしました。)

こちらにも コマはあるようで いきなりまわせる子もいました。まわせない子どもでも、あきずに練習すると だいたいまわせるようになります。

洗たく用(?)の大きなタライを使い「1.2.3」のかけ声で みんなで一斉にまわします。誰のコマがタライの中で最後までまわっているかを競います。「勝ち」です。

みんなが遊んでいると、時には施設長の「お父さん」も加わります。大人も子どもと一緒に遊べるコマは、とても良いコミュニケーションツールだと思います。

・ 旅の指差し会話帳 ミニ

この本も役に立ちました。めがらしさうにページをめくっている子どもたちに「これは(手話)どうやるの?」と日本語で聞くとかんのよい彼等は、こちらの意図をくみとり、手話をやってくれます。

「学校」「名前」「男」「女」「食べる」「けんか」... なるほどなあ、と思いがち、まねをししてみます。

こんな交流をしながら子どもたちに近づいていくのも楽しい時間でした。

・ おいかけこ (鬼ごっこ?)

少し仲よくなった子どもが 私の目の前でわざとふざけてみせる。

日本語では「アツカンバー」といふ感じ。えい、さほど広い庭へ

ご協力ありがとうございます。今後のプログラムに役立てさせていただきます。

走って行く。これは「おいかけておいで!」の意味。

私も外へ飛び出す。ブランコやすべり台のあいだを素早く逃げる子どもと追いかける私。その様子を見て5人、6人と逃げまわる子どもがふえていく。もはや完全に鬼ごっこ。

ワーワー キーキー 遊んでいると、その声を聞きつけて奥さんが家の中から出てくる。「何事が始まったの!?!」という表情で。こどもも道具もいらない。こんな遊びも とて楽しかった。

・ ジャンケン

「さいよはグー、ジャンポン!」を知っている子どもがいました。その子とジャンケンをしていると次第に子どもたちが集まってきました。勝つよこび、負けて悔やしかる... ただそれだけなのに、とても盛りあがりました。

・ その他

(1) 遊び道具が少ないと思いました。

トランプやボードゲームで遊んでいる姿は見かけませんでした。また、本を読んだり、人形やおもちゃで遊んでいる様子もありませんでした。

(2) 子どもたちの食事は、1枚のプレートにご飯を盛り、さらにその上におかずが3~4種類のせられる。

量的には不満がないと思うけれど、栄養バランスが欠けになり、近くのスーパーでヤクルト、パック牛乳を買ってさし入れました。

(3) 寄付を30万円ほどアしました。でも8日間の活動で昼食、夕食を計10回以上いただきました。(子どもたちと同じ食事をいただきました) もっと寄付した方がよかったのかな...

(4) 写真をプレゼントしました。

活動中に撮った^(写真を)近くのお店をプリントして、最終日にプレゼントしました。(翌日仕上げで1枚2000ルピア) おかえしに、お父さんから Tシャツを2枚もらいました。 いいおみやげになりました。

< この施設を訪問しようとしている方へ >

- 子どもたちが施設にいる時間は、実質、お昼からなので、午前中は、観光、町をぶらぶら、のんびり...して、午後から施設を訪問するとよいと思います。
- 耳が聞こえない子どもたちですが、交流はできます。(もし聞こえて話せてもインドネシア語だし) 子どもたちは明るく、ボウに興味を持っているように感じました。
- 何かを教える、という上から目線ではなく、一緒に遊ぶという同じ目の高さで接すれば、楽しい時間が共有できると思います。笑顔が一番。
- 遊び道具が少ないので、何か持っていくと喜ばれると思います。文房具などもいいかもしれません。

< ホテル >

TV、エアコン、大きなベッド、足をのばせる広いバスタブ。寝とまりあるだけなら不自由はありません。でも、細かく見ていくと気になる点も。

- (1) バスタブにお湯をためていたら、途中から水になった。
- (2) 部屋に電話がない。フロントに用事のある時は、いちいち出かけて行かなければならない。しかもフロントは別棟にある。
- (3) 冷蔵庫がない。
- (4) 部屋の前のテラスのようなところで朝食をとるのだが、お昼になっても後かたづけがされていないことが、数回あった。
- (5) ドアのキーが固くて、開け閉めに力がいる。

< 両替所 >

両替は3回^{おこな}行った。

- 到着時、空港で (1円 → 112ルピア)
- ウタマさんに連れていってもらった両替所で (1円 → 113.8ルピア)
- ホテルの近くの両替所で (1円 → 113ルピア)

ホテルの近くには両替所がないと聞いていたが、ぶらぶら町あるきをしているときに、たまたま発見。 また使わなかったルピアは、最終日、空港に送ってもらった途中の両替所で円にかえた。

< 観光 >

- キンタマニ高原 ... 期待していた景色も雨で霞んでた。残念!
- 観光農園 ... 私は1回行けば十分。
- アンスリー温泉 ... オプションツアーで、ウタマさんに連れていってもらった。でも、お湯はぬるくながめもよくない。正直、はずれ。